

校長	教頭	担当者
単位数	4単位(年間:2単位) 70時間	
学科・学年・学級	普通科 第2学年2・3組	

家庭科「家庭総合」年間指導計画

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	使用教科書:第一学習社「家庭総合」 副教材:第一学習社「家庭総合学習ノート」、第一学習社「生活ハンドブック」 資料&成分表

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	配当時間	学習のねらい・目標	備考
第1学期	第1編 人とかかわって生きる 第1章 自分らしく生きる 1 自分を見つめる 2 青年期を生きる	4	6	・自分自身について客観的に知り、生涯を見通して人の一生について考え、それぞれのライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。	自分自身の性格について知る。 将来をイメージさせる。 ワークシート使用する。
	第2章 家族とかかわって生きる 1 パートナーと出会う 2 家族って何だろう	5	8	・さまざまな結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族が抱える課題などを理解する。	視聴覚教材及びディベート等で結婚、家族、家庭に関する課題について学習を深める。 様々ライフスタイルがあることを理解する。
	3 家族と法律	6	8	・家族に関する法律について学習し、理解する。	
	第1編・第3章 子どもとかかわって生きる 1 みんなで育てる			・保育を学ぶ意義について学習します。 ・子どもの世界と出会うことによって、自己理解を深める。	
	2生命の誕生 3心身の豊かな発達を 4子どもの生活を知る 5すべての子どもがすこやかに	7	6	・青年期の健康管理の重要性を学習する。 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴、子どもの生活や遊びについて理解する。 ・現在の子どもをとりまく環境を知り、子どもの発達と環境とのかかわりについて理解する。家庭保育と集団保育、子育てのための国や地域の社会的支援について学ぶ。	妊婦疑似体験、沐浴、アタッチメントの形成、子どもの遊び・食生活についての理解を深めるため、絵本の読み聞かせやおやつを作る実習等を行う。
ホームプロジェクト	8		・ホームプロジェクトの課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行う。ホームプロジェクトの課題としてボランティア活動を選択することも可能である。	レポート	
第2	「家庭科を学ぶにあたって」 衣生活「装う」 第2編・第2章 衣生活をつくる 1 人と衣服のかかわり	9	6	・「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服などの学習を通して、衣服とは何か、衣服の機能や役割について理解する。	
	2 私たちの衣生活	10		・流行やアパレル産業など、衣生活の現状や問題点を把握し、自分たちの衣生活と結びつけて学習する。	手持ち衣料調査。

平成27年度久米島高等学校 家庭総合 2年普通科 年間計画

学期	3 衣服は何からできているのか 4 衣服をつくろう	1 1	22	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。 ・衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。また、自己表現としての着装についても完成品を用いて学習する。 	衣服製作実習 基礎縫い エプロン
	5 よりよい衣生活を創造する	1 2		<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の購入・洗濯・保管などについて理解し、資源・環境にも配慮した衣生活やユニバーサルデザインについても学習する。 	衣服の表示調査。 界面活性剤実験。

平成27年度久米島高等学校 家庭総合 2年普通科 年間計画

第3学期	第3編・第1章 消費行動を考える 1 主体的な消費行動	1	6	・消費行動において、意思決定のプロセスについて理解する。 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について理解する。 ・被害にあった場合の解決方法について理解する。	
	2 消費者の権利と責任	2	4	・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動するための知識を深める。	
	3 資源・環境を考える	3	4	・資源及び環境に配慮した生活スタイルについて考える。	

3 評価規準・評価方法

<p>< 関心・意欲・態度 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。 <p>< 思考・判断・表現 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。 <p>< 技能 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けることができる。 <p>< 知識・理解 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。 <p>< 評価 ></p> <p>これらの観点を踏まえ、各領域や毎授業ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業中の学習の様子（発表等の学習活動や実習活動への取り組み状況など） ②ワークシート、物づくり(作品)、レポート等の提出物 ③定期考査
